

会 議 録	
会 議 名	令和6年度 第2回 丸亀市未来を築く地域戦略会議
開催日時	令和6年10月25日（金）14：00～15：30
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	出席委員 西成 典久、高畑 響子、荒川 和哲、池内 丈史、相原 しのぶ、佐久間 知恵 西川 真智子、三谷 幸代、井上 達也、向井 将寅 欠席委員 岩倉 洋平、中村 優、高木 和代、内海 珠美、高木 明美、秦 佳子 梶谷 孝啓、直井 馨子 事務局 市長公室長 栗山 佳子 （政策課）課長 真鍋 裕章、副課長 藤井 慶子、主査 大川 智
議事	1. 行政計画のスリム化について 2. 丸亀市人口ビジョン(案) 及び 第3期丸亀市未来を築く総合戦略について 3. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今より、令和6年度第2回丸亀市未来を築く地域戦略会議を開会します。議事に入る前に、新任委員から自己紹介をお願いします。
真鍋課長	<荒川委員・池内委員 自己紹介>
真鍋課長	ありがとうございます。池内委員は、前任委員が就任していた副会長を引き続きお願いします。次に、本日の資料を確認します。
真鍋課長	<資料の確認>
真鍋課長	なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようにしてください。それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。
西成会長	それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数18名中10名の出席であり、過半数を満たしていますので、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。 本日の議事は、 （1）行政計画のスリム化について （2）丸亀市人口ビジョン(案) 及び 第3期丸亀市未来を築く総合戦略について

	(3) その他 の3件です。まず、「(1) 行政計画のスリム化について」事務局より説明をお願いします。
真鍋課長	<資料に基づき説明>
西成会長	改めての確認になりますが、本会で審議する計画は、未来を築く総合戦略になりますか。
真鍋課長	はい。次年度、総合計画を見直す際に、総合戦略が総合計画に統合されることを踏まえ、ご審議いただきたいと思います。
西成会長	行政計画のスリム化進めるうえで、懸念されることはありますか。
真鍋課長	総合計画と総合戦略を統合する行政計画のスリム化は、すでに香川県や高松市等の自治体で行っていますが、中には総合計画と総合戦略をほぼ同じとして位置付け、総合計画のどの部分が総合戦略に該当するのか分かりにくい計画があります。本来であれば総合計画がまちづくり全般を、総合戦略が人口減少や地方創生を各計画で明確に示す必要があると思いますので、総合計画に統合するとはいえ、総合戦略の部分がはっきり分かるよう計画を作っていきたいと考えています。
西成会長	私に関わる他の自治体でも、審議会の統合などが進められていますので、実効的な計画につながるよう検討を進めていただきたいと思います。 次に、「(2) 丸亀市人口ビジョン(案) 及び 第3期丸亀市未来を築く総合戦略について」事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づき説明>
西成会長	合計特殊出生率が横ばいであるにも関わらず、2023年の出生数が激減した理由を教えてください。
大川	出生数激減の理由は現在究明中ではありますが、合計特殊出生率の最新値が2022年となっており、2023年の数値が発表されることで理由も少しは分かってくるのではないかと考えています。
西成会長	2020～2022年はコロナ禍でありながらも概ね横ばいに推移しているので、コロナ後に急激に減少したとも読み取れますが、原因の究明を進めていただきたいと思います。

相原委員	丸亀市独自推計による総人口の推計結果を確認すると 2022、2023 年で実績値が大きく推計値に近づいていることから、2023 年の出生数激減の理由を究明し、計画に反映させないと人口ビジョンを更新する意味が薄れると思います。
西成会長	出生数は、どのようにカウントしていますか。
真鍋課長	日本国内における日本人の出生で、丸亀市への届出に基づいて集計しています。外国における日本人の出生や日本における外国人の出生数は含まれません。 先ほどご意見いただいた 2023 年の出生数激減の要因をコロナとするならば、2024 年の出生数が良化する必要があります。 また、少子化が進む他の自治体からは、ある年を境に出生数が激減し続けていると聞いており、丸亀市も 2023 年がターニングポイントとなるかもしれないと危機感を感じています。原因の究明とその原因に対してどうアプローチしていくかを見出していきたいと考えています。
西成会長	2022 年の転出超過が原因を探る鍵になると思います。コロナ禍の終わり頃になぜ転出が多くなったのか、委員の皆さんの意見をお聞きしたいと思います。
池内副会長	転入・転出の傾向で、65 歳から 90 歳以上までが転出超過となっている理由が分かれば教えてください。
佐久間委員	独居の高齢者が転出する理由として、市外の子との同居が多いとお聞きしますので、転出超過の一つの理由ではないかと思います。
相原委員	出生数の話に戻りますが、2022 年は、ウクライナ戦争の開始や企業向けのコロナ給付金の終了など、未来への希望を見出せなくなったターニングポイントではないかと個人的には思います。
三谷委員	丸亀市では、独居の高齢者が増加傾向にあり、今後も増え続けていくだろうと推測されています。また、2022 年頃から企業の営業所の合併等が一気に進み、生活困窮者の就労支援をしていく中で、雇用が減少していると感じています。その一方で、若者の雇用は増えている印象を受けており、今後どうなっていくのか不安に思います。
西成会長	こどもばかりに目が行きがちですが、独居の高齢者をどう支えていくかの視点も重要です。人口ビジョンや総合戦略にどのように反映させていくのか、考えはありますか。
真鍋課長	岸田政権から石破政権に代わり、「デジタル田園都市国家構想」を発展させるための「新しい地方経済・生活環境創生本部」が設置され、これまでの子育て政策から産

	業政策に政策転換すると報道等でお聞きしています。 これから人口を増やしていくことは難しいと思いますので、人口減少によって懸念されている地域力の低下や生活レベルの低下などが起こらないよう総合的に進めていく中で、新しい総合戦略の4つの基本目標の一つである「地方に仕事をつくる」に特に重点を置いた計画を作りたいと思っています。 また、若者が都会に出て帰ってこない大きな要因の一つとして、魅力的な仕事や働く場所がないと言われているので、市としてできることを取り組んでいきたいと考えています。
西成会長	地方分散型社会を国が進めています、一極集中になっているのが現状です。丸亀市だけでは解決できない日本全体の構造転換が必要にはなりますが、工場だけではなくホワイトカラーの本社機能を誘致するメッセージを発出したり、民間企業が公共事業を担う先進自治体の取組を紹介したりするなど、様々な産業政策を検討していただければと思います。
相原委員	総合戦略の体系図を見ると基本施策が網羅的に掲載されており、丸亀市の強みを戦略として十分に打ち出せていない印象を受けます。社会増の傾向にあることやベッドタウンなど、人口ビジョンで分かったデータを活用し、新しい総合戦略に落とし込むことができれば、市民に分かりやすく、具体的な施策への反映もしやすいのではないかと思います。
真鍋課長	現在の総合戦略では、人口減少対策につながりそうな取組を広く掲載していることから、総合計画と総合戦略の差が分かりにくくなっている状況です。今後、行政計画のスリム化を進め、総合計画に総合戦略が統合される中で、相原委員のご意見を参考にしながら、人口減少対策として重点を置いている部分をお示しできるよう計画策定を進めていきたいと考えています。
西成会長	人口ビジョンや総合戦略の内容をすべての管理職が理解できるよう政策課でマネジメントを進めていただければと思います。 また、ご発言いただいていない委員の皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、順番をお願いします。
向井委員	就職活動をする中でIT企業への就職を希望していますが、求人が多いのはやはり都市部になるため、若者が流出していくのだと思います。そのため、本社機能を丸亀市に置く取組は効果的ではないかと思いました。
井上委員	人口ビジョンの将来人口目標ですが、将来への希望を持って緩やかに減少する目標を立てて進めていくのも良いですが、国や県に合わせ高めに設定している合計特殊出生率を現実的な数値に置き換えたうえで、施策を検討するのも良いと思います。

	また、令和7年度には、瀬戸内国際芸術祭や大阪・関西万博が控えていますので、丸亀市の交流人口を拡大する取組の検討も必要だと考えます。
西川委員	出生数の減少は、経済状況や子育て環境を理由に二人目は難しい話をお聞きします。人口ビジョンに掲載していたことも未来計画のアンケートに子育てしやすいまちかとの設問について前回より良化していましたが、どうすればより子育てしやすいまちになるのか、掘り下げた質問を次回アンケートですれば良いと思いました。
高畑委員	現在、ニッカリ青江の公開展示を実施している関係で、多くの観光客の方とお話する機会がありますが、丸亀市は本当に良いまちで移住したいとお褒めの言葉をいただきます。その一方で、移住を真剣に検討するも丸亀市をはじめ地方では就職できる企業に限りがあることから二の足を踏んでいるのが現状です。 丸亀市には新しく企業を誘致するような土地に限りはあると思いますが、企業や大学の誘致に取り組み、丸亀市に定着していただける方を増やしていければ良いと心から思っています。
荒川委員	金融機関から出席している立場として、創業塾への協力など金融面に関するお手伝いを継続していきたいと思っています。
井上委員	高畑委員の企業誘致に関連して、クラボウ丸亀工場跡地に大型スーパーができましたが、残りの跡地の利活用について、市として取り組む計画はありますか。
真鍋課長	丸亀市の状況として、瀬戸内海を埋め立てて造った工業団地に空きはほぼないため、綾歌などへの誘致に取り組んでいます。企業誘致となると土地を購入し造成する必要があり、莫大な費用を要します。産業部局では、企業誘致に関する補助金を構え誘致に取り組んでいます。受け入れる土地が不足している状況です。 また、クラボウ丸亀工場跡地は、民間所有の土地となりますので、市として直接関わることは難しいと考えています。
西成会長	市ですべてを準備することは難しいと思いますが、インターネット回線を巡らせる補助制度に取り組み、IT企業の誘致に成功した事例もあると聞いています。 他にご意見もないようですので、最後に議事の「(3) その他」について事務局より何かありますか。
真鍋課長	<今後のスケジュールについて説明>
西成会長	他にないようですので、本日の会議を終了します。 (会議終了)